

# 県民歯と口の健康プラン中間評価報告書（概要）

## 計画の概要

（平成25年11月策定）

### 1 計画の理念

- ① 県民が生涯にわたり自ら歯と口腔の健康の保持及び増進に向けた取組みや歯科疾患の早期発見・治療を行うことを促進
- ② 県民が適切に、生涯を通じて必要な歯科保健医療サービスをうけることのできる環境整備を推進
- ③ 保健・医療・福祉等の関連施策の連携・協力を得て、総合的に歯と口腔の健康づくりを推進

### 2 基本目標

生涯を通じた口腔の健康及び口腔機能の維持・向上の観点から『8020運動』をさらに推進

### 3 基本方針

- ① 歯科疾患の予防、② 口腔機能の獲得・維持・向上、③ 要介護者、障害(児)者等への歯科口腔保健の推進、④ 災害発生時の歯科保健医療対策、⑤ 歯科口腔保健の推進を支える環境整備

### 4 計画の期間

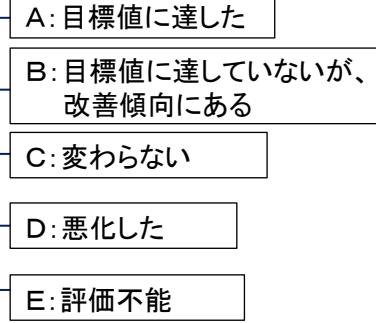
平成25年度から平成34年度までの10か年（29年度に中間評価を実施、最終年度に最終評価予定）

## 中間評価について

富山県歯科保健医療対策会議で審議  
（会長：山崎安仁富山県歯科医師会長）

### ○評価の方法

目標値とベースライン値、現状値を比較し、達成状況を評価



### ○評価の結果

評価	数	割合
A	1	4.2%
B	14	58.3%
C	0	0.0%
D	8	33.3%
E	1	4.2%
計	24	

## 主な目標の中間評価結果

基本方針	主な目標指標	ベースライン値	現状値	(参考) 全国現状値	目標値	達成状況	
① 歯科疾患の予防	乳幼児・学齢期	3歳児でむし歯がない者の割合が80%以上である市町村の増加	8 H24	14 H27	—	全市町村	B
		12歳児でむし歯のない者の増加	53.2% H24	66.6% H28	64.5% H28	65% ⇒80%	A
		12歳児の一人平均むし歯数が1.0本未満である市町村の増加	8 H24	12 H28	—	全市町村	B
		フッ化物洗口を実施している学校・施設の増加	33.8% H23	32.6% H27	—	50%	D
		中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の減少	18.9% H24	18.4% H28	19.8% H28	15%	B
	成人・高齢期	20歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	37.0% H23	43.3% H29	27.1% H26	25%	D
		40歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	52.1% H23	61.5% H29	44.7% H28	40%	D
		60歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	65.1% H23	73.8% H29	59.4% H28	60%	D
		70歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	65.4% H23	75.5% H29	54.4% H28	60%	D
		過去1年間に歯科健康診査や専門家による口腔ケアを受診した者の増加	48.9% H25	49.0% H28	52.9% H28	65%	B
	喫煙と歯周病の関係を知っている者の増加	34.1% H22	38.2% H28	—	50%	B	
② 口腔機能の獲得・維持・向上	中学生・高校生における不正咬合等が認められる者の減少	12.5% H24	11.9% H28	—	10%	B	
	40歳(35～44歳)で喪失歯のない者の増加	59.2% H23	66.8% H29	73.4% H28	70%	B	
	60歳以上における咀嚼良好者の増加	—	65.1% H28	66.6% H27	80%	E	
	60歳(55～64歳)で24本以上の自分の歯を有する者の増加	59.7% H23	67.2% H29	74.4% H28	70%	B	
	80歳(75～84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の増加	45.5% H23	44.9% H29	51.2% H28	50%	D	
③ 要介護者、障害(児)者等への歯科口腔保健の推進	障害(児)者入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	70.0% H24	80.6% H28	62.9% H28	90%	B	
	介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	25.0% H24	34.8% H28	19.0% H28	50%	B	
	在宅療養支援歯科診療所数の増加	11 H24	71 H29	—	増加	B	

## 現状と課題、今後の取組みの方向性

### 【現状と課題】

#### ① 乳幼児・学齢期のむし歯予防

- ・ 乳幼児・学齢期におけるむし歯は改善している。
- ・ フッ化物洗口を実施している学校・施設は市町村間で格差がある。
- ・ 生え始めの歯はむし歯になりやすいことから、生涯を通じた口腔の健康及び口腔機能の維持・向上のため、永久歯のむし歯予防の取組みの更なる推進が必要。

#### ② 成人・高齢期、特に働く世代の歯周病予防

- ・ 成人・高齢期における進行した歯周炎を有する者は増加しており、全国と比べて高い。
- ・ 歯科健診等を受診した者の割合はほぼ横ばい。
- ・ 歯周病の進行により歯を失うことから、歯周病の重症化予防を図ることなどで、健全な口腔状態を維持する取組みが必要。
- ・ 特に、歯周病は初期では自覚症状が少ないことから若い世代で意識されにくく、進行してから気付くことが多い病気であるため、働く世代で重点的な取組みが必要。

#### ③ 口腔機能の獲得・維持・向上

- ・ 8020達成者は僅かに減少し、全国と比べて低い。
- ・ 60歳以上における咀嚼良好者は、全国と比べて低い。
- ・ 摂食、咀嚼、嚥下等の口腔機能は、食べる喜び、話す楽しみ等のQOLの向上、口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防や栄養状態の改善等、健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしており、嚙む機能の強化等の取組みの推進が必要。

### 【今後の取組みの方向性】

#### ① 乳幼児・学齢期のむし歯予防

学校・施設等でのフッ化物応用の実施を含めたむし歯予防の取組みを支援。

#### ② 成人・高齢期、特に働く世代の歯周病予防

歯周病と糖尿病、喫煙等の全身の健康の関係に関する普及啓発や関係者との連携などの取組みを支援。

#### ③ 口腔機能の獲得・維持・向上

摂食、咀嚼、嚥下等の口腔の機能障害に対応できる歯科専門職の育成を支援。